



軽防協ニュース速報

2021 年第 3 四半期(7 月-9 月)の伝染病発生状況

2021 年 12 月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2021 年第 3 四半期 (7 月-9 月) の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定 (リアルタイム) のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に * 印または # 印を付して示されている。ICC 暫定 (リアルタイム) のレポートは <http://jdata.co.za/iccviewer/> のページ内にある。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1 件の発生で複数症例を含むものがある。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-3	レプトスピラ症	PHF
ドイツ	13	-	-	-	-
アメリカ	-	*2	*1	*2	*1

* ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

馬伝染性子宮炎 (CEM)

ドイツ

バイエルン州、ヘッセン州、ニーダーザクセン州、ノルトライン・ヴェストファーレン州およびシュレースウィヒ・ホルシュタイン州の施設において、13 件の発生を認め、3 件は各 2 例、10 件は単独症例だった。6 件が牡馬、7 件が牝馬の感染であった。生殖器スワブの PCR 検査にて陽性が確認された。

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

アメリカ

*ケンタッキー州において2例の流産が報告された。

馬ヘルペスウイルス3型 (EHV-3)

アメリカ

*ケンタッキー州において痲疹を認めた1例の報告があった。

レプトスピラ症

アメリカ

*ケンタッキー州においてレプトスピラによる流産および泌尿器疾患各1例が報告された。

ポトマック馬熱 (PHF)

アメリカ

*ケンタッキー州において1例の流産が報告された。

呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-2	EHV-5	EHV-4	EI	ロドコッカス エクイ	腺疫
ベルギー	-	-	-	-	-	-	1
カナダ	-	-	-	-	1	-	-
フランス	-	-	-	4	-	-	22
ドイツ	2	-	-	2	-	-	2
イタリア	-	-	-	1	-	-	-
オランダ	-	-	-	2	-	-	24
スイス	-	-	-	2	-	-	5
南アフリカ	*9	-	-	*1	-	-	-
イギリス	-	-	-	-	3	-	-
アメリカ	1	*18	*25	-	*23	*11	25

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による呼吸器感染症

ドイツ

ノルトライン・ヴェストファーレン州およびメクレンブルク・フォアポンメルン州の施設において、2件の単独発症を認めた。臨床症状は気管支肺炎および膿瘍形成であった。1例は鼻咽頭スワブを、もう1例は気管洗浄液を用いたPCR検査にて陽性が確認された。

アメリカ

ニューヨーク州のサラトガ競馬場において、サラブレッドの雌の子馬 1 頭が発症し、発熱などの臨床症状を認めた。

南アフリカ

ハウテン州(7 例)、クワズール・ナタール州(1 例)、西ケープ州(1 例)にて発生を認めた。

馬ヘルペスウイルス 2 型および 5 型 (EHV-2,-5) による呼吸器感染

アメリカ

* EHV2 型 (18 例) および EHV5 型 (25 例) の感染が 5 つの州で確認され、うち数例は呼吸器疾患の臨床所見が見られた。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器感染症

フランス

カルヴァドス県、ブーシュデュローヌ県、アベイロン県およびロワール県の施設において、計 4 件の発生を認め、1 件は 2 例、3 件は単独症例であった。発熱や鼻汁などの臨床症状を認め、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

ドイツ

計 2 件の発生を認め、1 件は 4 頭の子馬を含む 5 例、もう 1 件は 7 頭すべてが子馬での発症であった。臨床症状は発熱や鼻汁などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

イタリア

サッサリ県の施設において 1 頭の発生を認めた。

オランダ

ゾイトホラント州およびドレンテ州の施設において、2 件の単独症例を認めた。発熱や乾いた発咳、鼻汁などの臨床症状を認め、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

南アフリカ

西ケープ州において 1 頭の発生を認めた。

スイス

チューリッヒ州の施設で 2 件の単独症例が報告され、発熱などの臨床症状を認めた。PCR 検査にて陽性を確認した。

馬インフルエンザ（EI）

カナダ

ブリティッシュコロンビア州の施設において、育成馬 1 頭に発生を認めた。同馬は直近にオークションで購入され、当該施設に入厩していた。

イギリス

ヘレフォードシャー州、オックスフォードシャー州、サリー州において計 3 件の発生を認め、1 件は 2 例、2 件は単独症例であった。発咳、下顎リンパ節腫大、食欲不振、沈鬱、発熱などの臨床症状を認めた。2 件の発生については鼻咽頭スワブの PCR 検査にて陽性が確認された。

アメリカ

*馬インフルエンザはアメリカの風土病である、23 の州において、単独または複数の発生を認めた。

ロドコッカス・エクイ

アメリカ

*合計で 11 頭の感染が報告された。

腺疫

ベルギー

リンブルフ州にて 1 頭の発症を認めた。同馬は直近にオークションで購入されており、リンパ節腫大、発熱、および膿瘍の自壊などの臨床症状を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

22 件の発生を認め、1 件は 3 例、もう 1 件は 2 例、他 20 件は単独の発症であった。膿瘍形成、発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱などの臨床症状を認め、喉嚢洗浄液、鼻咽頭スワブ、膿や膿性分泌物、気管洗浄液を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

ドイツ

1 件の単独発症と 1 件の複数発症の計 2 件の発生を認めた。臨床症状は発熱および呼吸器症状などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

オランダ

3 例の発症を伴う 1 件および 2 件の単独発症の計 24 件の発生を認めた。臨床症状はリンパ節の膿瘍形成、呼吸困難、リンパ節腫大、沈鬱、鼻汁、発熱および咽頭部の腫脹などであった。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

スイス

チューリッヒ州、フリブール州、グラウビュンデン州およびジュネーブ州の施設において、5件の単独発症を認めた。臨床症状は呼吸困難、嚥下障害、鼻汁、鼻出血、発熱、呼吸器症状などで、PCR検査にて陽性が確認された。

アメリカ

フロリダ州、マサチューセッツ州、ミシガン州、ニューヨーク州、ペンシルヴァニア州、ワシントン州およびウィスコンシン州において、計25件の発生が報告され、23件については単独発症、1件については8例の個別の発症、もう1件については2例の発症を伴う発生であった。膿瘍形成、発咳、下顎リンパ節腫大、食欲不振、沈鬱、鼻汁、発熱などの臨床症状を認めた。*腺疫はアメリカの風土病である。EDCCによって、すでに報告のあった上記の州における7例の新たな発生が追加報告された。

消化器疾患

発生国	クロストリジウム腸炎	馬原虫性脊髄脳炎	ロタウイルス	サルモネラ症
フランス	-	-	6	-
スイス	1	-	-	-
アメリカ	*14	*3	*2	*25

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

クロストリジウム腸炎

スイス

トゥールガウ州の施設において *Clostridium* 属菌による腸炎1頭の発生が報告された。下痢や発熱などの臨床症状を認め、*C. perfringens* の培養によって陽性を確認した。

アメリカ

* *C. perfringens* による腸炎が11例、*Clostridioides difficile* による腸炎が3例、PCR検査にて診断された。発生の多くはケンタッキー州であった。

馬原虫性脊髄脳炎

アメリカ

*ケンタッキー州において、3例の発生を認めた。

ロタウイルス

フランス

カルヴァドス県、カンタル県、オートヴィエンヌおよびオルヌ県において 6 件の発生が報告され、1 件が 2 例、5 件は単独での発症であった。下痢などの臨床症状を認め、直腸スワブや糞便検体を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

*ロタウイルス A 群による感染が 2 例確認された。

サルモネラ症

アメリカ

*ケンタッキー州において、B 群による感染が 20 例、型別不明サルモネラ菌による感染が 5 例報告された。

神経疾患

発生国	EEE	EEV	EHV-1	狂犬病	WNV
アルゼンチン	-	-	# 1	-	-
カナダ	5	-	1	-	3
ドイツ	-	-	-	-	7
イタリア	-	-	-	-	# 3
ポルトガル	-	-	-	-	# 3
スペイン	-	-	-	-	6
南アフリカ	-	* 2	-	-	-
アラブ首長国連邦	-	-	-	-	1
アメリカ	28	-	6	1	58

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

東部馬脳炎 (EEE)

カナダ

オンタリオ州の施設において、5 件の発生が報告され、1 件は 2 例、4 件は単独での発症であった。臨床症状は急性の神経症状、運動失調、失明、脳神経障害、顔面麻痺、知覚過敏、筋痙縮、発熱、発作、横臥、突然の不穏行動などであった。発症馬は全て安楽死となった。

アメリカ

アーカンソー州、フロリダ州、ミシガン州、ミネソタ州、ニュージャージー州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州、サウスカロライナ州、ヴァージニア州およびウィスコンシン州において、計 28 件の発生があり、1 件は 3 例の発症、他 27 件は単独発症であった。臨床症状は食欲不振、運動失調、虚脱、沈鬱、頭部を壁に押し付ける、協調不全、筋痙縮、眼振、横臥、発熱、歯ぎしりなどで、感染馬の多くはワクチン未接種か、ワクチン接種が不十分であった。

馬脳症ウイルス (EEV)

南アフリカ

EEV は南アフリカの風土病であり、西ケープ州において 2 例の発生があった。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

アルゼンチン

#9 月 5 日～19 日に、10 頭の非サラブレッド種や競技馬で 1 件の発生を認めた。カルロスペジェグリーニからピラル市に 5～12 歳のポロ競技用雌馬が 40 頭移管されていたが、移管元においては呼吸器疾患や神経症状、流産などは認められなかった。移管後、2 頭の雌馬が後駆の運動失調を発症した。計 40 頭の雌馬のうち、4 頭が急性の神経症状や発熱を呈し、2 頭が発熱、3 頭が重度の呼吸器症状と発熱、1 頭が発熱と急性の呼吸器疾患および神経症状を示した。INTA(国立農牧技術研究所)による検査によって陽性が確認され、移動制限や当該施設の閉鎖などにより蔓延防止措置がとられた。感染馬のうち、2 頭の雌馬が死亡した。

カナダ

オンタリオ州において 25 歳のワクチン接種馬に発症を認めた。臨床症状は横臥するほどの重度の進行性運動失調などであった。同馬は安楽死となった。

アメリカ

カリフォルニア州ソノマ郡のショーに出場した馬数頭の発症を伴う 1 件、および単独発症 5 件の計 6 件の発生があった。臨床症状は運動失調、起立不能、神経症状、浮腫、横臥などであった。感染馬のうち、3 頭が安楽死となった。

狂犬病

アメリカ

モンタナ州において 1 頭の発症を認めた。これは 2021 年のモンタナ州における 12 例目の発症で、陸生種（コウモリを除く）では 5 例目であった。

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

カナダ

オンタリオ州およびサスカチュワン州で3件の発生があり、1件は別々に発症した2頭によるものの、他の2件は単独症例であった。臨床症状は痲痛、神経症状、パドリング、発熱、横臥などであった。計2件の発生において、感染馬はワクチン接種済みであった。

ドイツ

7件の単独発症を認めた。うち4件についてはブランデンブルク州での発生であった。

イタリア

ロンバルディア州において2件の単独症例が報告され、うち1件はウエストナイルウイルス系統2の株であることが判明した。さらにもう1件の発生がロンバルディア州ベルガモ県において報告された。

ポルトガル

#3件の単独症例が報告され、ELISAによって陽性が確認された。

スペイン

計6件の報告があり、うち1件は別々に発症した3例を含むもの、2件は単独症例であった。2件の発生についてELISAによって陽性が確認された。

アラブ首長国連邦

アブダビの施設において、ワクチン未接種の非サラブレッド種雌馬に発生し、安楽死処置に至るほどの神経症状を認めた。IgM ELISAによって陽性が確認された。

アメリカ

アリゾナ州、カリフォルニア州、コロラド州、アイダホ州、ケンタッキー州、ミシガン州、ミネソタ州、ニューヨーク州、ノースカロライナ州、ペンシルヴァニア州、オクラホマ州、オレゴン州、サウスカロライナ州、ユタ州、ワシントン州において28件の報告があり、臨床症状は運動失調、腰痠、知覚過敏、協調不全、食欲不振、倦怠、筋肉振戦、眼振、発熱、頻脈、ふらつきなどを認めた。

その他の疾患

発生国	AHS	アナプラズマ症	炭疽	EIA	EVA	ピロプラズマ症	PHF
カナダ	-	-	-	3	-	-	-
フランス	-	-	-	-	#1	-	-
イタリア	-	-	-	#9	-	-	-
日本	-	-	-	-	-	1	-
カザフスタン	-	-	1	-	-	-	-
スペイン	-	-	1	-	-	-	-
南アフリカ	*1	-	-	-	-	*38	-
スイス	-	3	-	-	-	-	-
アメリカ	-	-	1	6	-	-	9

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

四半期末後に報告があったもの

アフリカ馬疫 (AHS)

南アフリカ

AHS は西ケープ州の AHS 管理地域を除いて、南アフリカで常在している感染症である。常在地域であるハウテン州において 1 頭の発生を認めた。

アナプラズマ症

スイス

ベルン州、ボー州、チューリッヒ州において、3 件のエールリヒア症と混合感染した単独症例を認めた。臨床症状は発熱や貧血などであった。1 例は PCR 検査、病原体検出および IFAT にて陽性を確認した。

炭疽

カザフスタン

一牧場で馬、牛および羊での発生を認めた。馬では 115 頭中 10 頭が発症し、9 頭が死亡した。PCR 検査にて陽性が確認された。

スペイン

ナバルビジャーラデペラにおいて 3 頭に発症を認めた。9 頭の感染を疑う馬のうち、PCR 検査によって 3 頭の陽性が確認された。

アメリカ

テキサス州において 1 頭の発症を認めた。2021 年のテキサス州における 3 例目の症例であった。

馬伝染性貧血（EIA）

カナダ

アルバータ州およびブリティッシュコロンビア州において、3件の単独症例を認めた。

イタリア

ラティーナ県、カゼルタ県、フロジノーネ県において、それぞれ1例、4例、3例の合計8件の単独発症を認め、うち1頭はロバへの感染であった。さらにもう1頭での発症をシチリア州エンナ県においても認めた。

アメリカ

テキサス州およびユタ州において、それぞれ5件および1件の計6件の発生を認めた。テキサス州での発生はすべてクォーターホースへの感染であった。ユタ州での発生は、オークションで売買された野生馬群での感染であった。

馬ウイルス性動脈炎（EVA）

フランス

#メーヌエロワール県において、3歳のフレンチサドル種の雄馬および19歳のオランダ温血種の雄馬に発生を認めた。精液を用いたPCR検査にて陽性を確認した。

ピロプラズマ症

日本

オリンピック会場である東京都の馬事公苑において、1頭の発症を認めた。感染馬は発熱や貧血などの臨床症状を見せた。採取された血液検体の塗抹鏡検およびPCR検査にて *Theileria equi* の陽性および *Babesia caballi* の陰性が確認された。

南アフリカ

ピロプラズマ症は風土病として知られており、9つの州のうち以下の5つの州で発生が報告された。東ケープ州（4例）、ハウテン州(26例)、クワズール・ナタール州(2例)、ムプマランガ州(2例)および西ケープ州(4例)。

ポトマック馬熱（PHF）

アメリカ

メリーランド州、マサチューセッツ州、テネシー州およびワシントン州において9件の単独症例が報告された。臨床症状は跛行、重度の下痢、脱水、発熱、食欲不振、倦怠などであった。